

(8) 中国



中国地域では、景気は改善の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

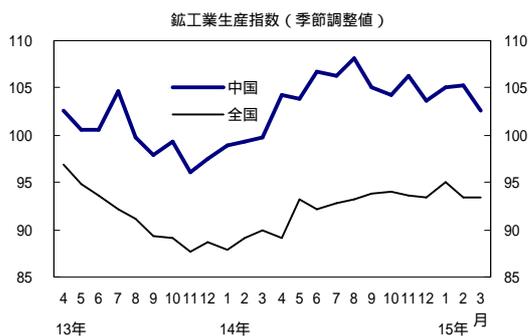
前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

化学は、アジア向け輸出が高水準で推移しており、国内需要も堅調であることから、持ち直しの動きがみられる。一般機械は、アジアや自動車向けの受注が持ち直してきており、底堅く推移している。鉄鋼は、アジア向け輸出や自動車向けが堅調であり、また高炉改修が終了したことから、持ち直しの動きがみられる。電気機械は、携帯電話の新機種投入効果に加え、輸出が増加していることからフル生産を継続しており、底堅く推移している。自動車は、輸出の鈍化と新型車効果が一巡したことから、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率)(%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
化学	16.5	2.3	6.4	7.4	1.2		
一般機械	11.5	3.0	2.2	0.9	0.3		
鉄鋼	11.4	0.8	3.8	6.0	3.2		
電気機械	10.3	0.1	1.8	2.8	8.3		
自動車	9.8	5.5	9.6	6.3	23.0		
鉱工業	100.0	1.8	0.8	0.8	3.1		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

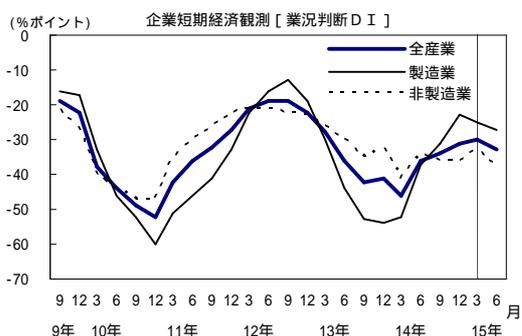
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 平成15年3月の中国は速報値。

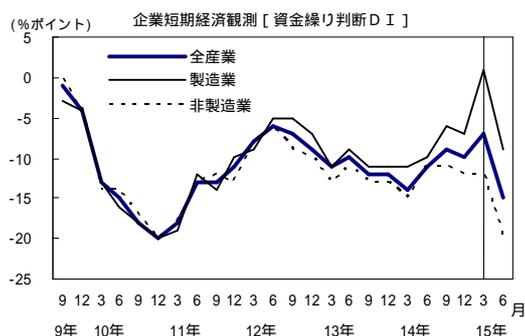
2. 中国は平成7年基準(左目盛)、全国は平成12年基準(右目盛)。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

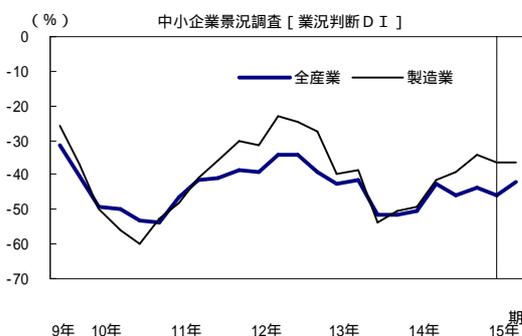
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「イントラネット拡大など通信サービスの受注回線数は伸びているが、低価格化傾向は続いており、通信業界は相変わらず体力勝負の厳しい状況にある (通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

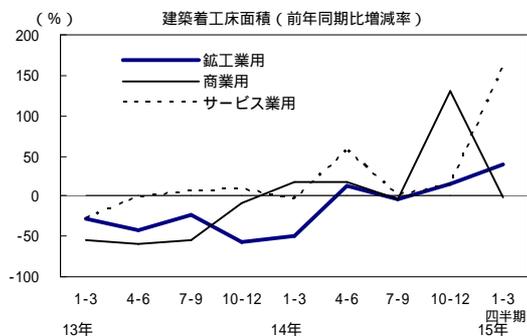
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度見込
全産業	3.5 (0.5)	2.3
製造業	9.4 (0.7)	7.3
非製造業	2.3 (0.4)	2.0

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

() は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

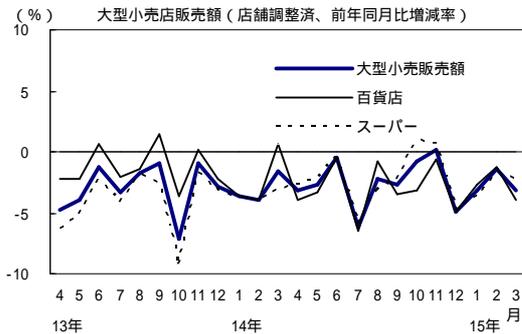
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月後半の降雪など全般に気温が低めで推移したことから、1、2月に行われた衣料品の冬物セールは健闘したものの、3月の春物商戦は不調であり、クリアランスセールも低調であった。また、家庭用品の売り上げが大幅に減少しており、1～3月期は前年を下回った。

スーパーでも、百貨店同様、気温が低めで推移したことによって春物衣料品が低迷し、また主力の食料品も前年割れとなったことから、1～3月期は前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「買替えの長期化の影響で、修理受付には常時客が来店している(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

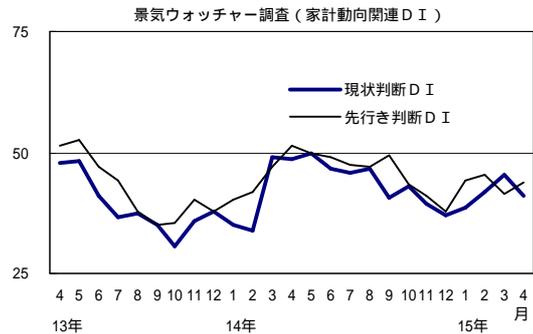
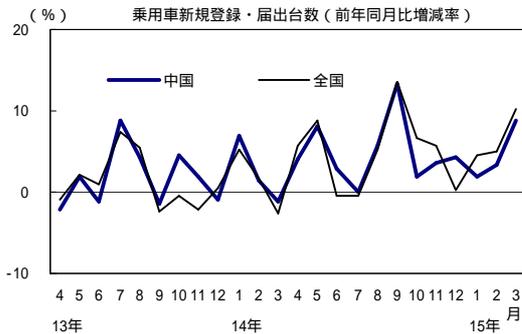


(前年同月比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	2.1	3.9	2.2	2.7
百貨店	2.6	4.0	3.1	2.8
スーパー	1.8	3.8	1.5	2.6
乗用車	4.8	6.3	3.3	5.5
景気ウォッチャー	48.4	44.3	39.8	42.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

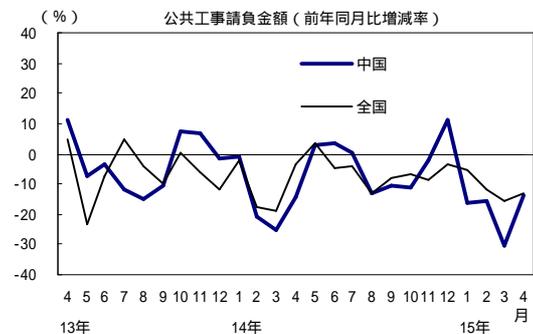
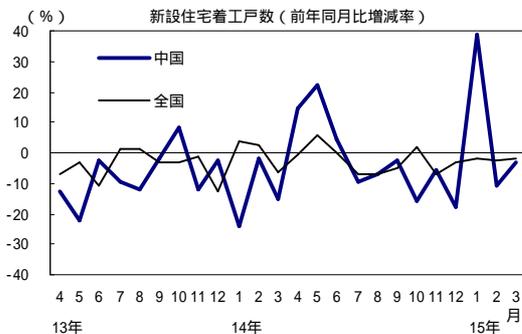
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家を中心に前年を上回ったものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

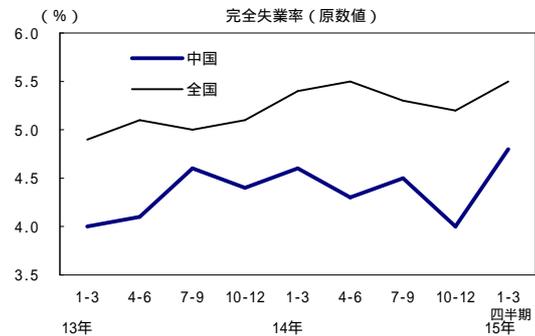
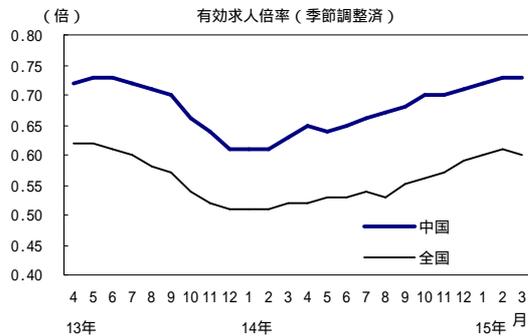


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

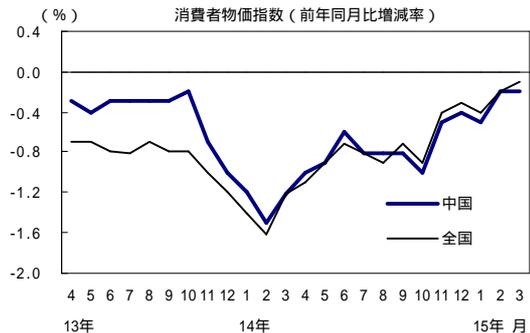
「求人票作成のため訪問する企業先で、人事制度再構築の相談を受けることが増えており、特に年功を廃止するケースが顕著になっている (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は横ばい、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	220	248	254	234	69
(前年比)	15.1	6.0	10.0	0.4	5.5
負債総額	480	850	791	1,545	285
(前年比)	28.7	11.5	43.2	58.4	42.5



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・道路交通法が厳しくなったことも影響し、夜半から深夜にかけての売上が低下している (都市型ホテル)。

<先行き>

・来客数の予約状況は例年並みでほとんど変わらないが、70歳以上の方に対するゴルフ利用税が課税対象から外れたため、今後客足が少し伸びる可能性がある (ゴルフ場)。

